

## 第2回牧之原市学校用地候補地選定委員会 次第

日時:令和4年9月15日(木)

榛原地域:午後1時~ 相良地域:午後3時~

会場:牧之原市役所相良庁舎4階大会議室

1 開 会

2 教育長あいさつ

3 事務局からの情報提供

4 協議

- 各候補地の状況整理(長所・短所・課題等を整理)
- 候補地評価シートの項目と点数配分

5 市長あいさつ

6 連絡事項

7 閉 会

### 【第3回のご案内】

- |                    |                    |
|--------------------|--------------------|
| ➤ 日程:10月7日(金)      | ➤ 会場:相良庁舎4階大会議室    |
| ➤ 榛原地域:13:00~14:30 | ➤ 相良地域:15:00~16:30 |

担 当:牧之原市教育文化部学校再編推進室

電 話:0548-53-2640 F A X:0548-53-2657

E-mail:kyoiku@city.makinohara.shizuoka.jp

## 牧之原市学校用地候補地選定委員会 委員名簿

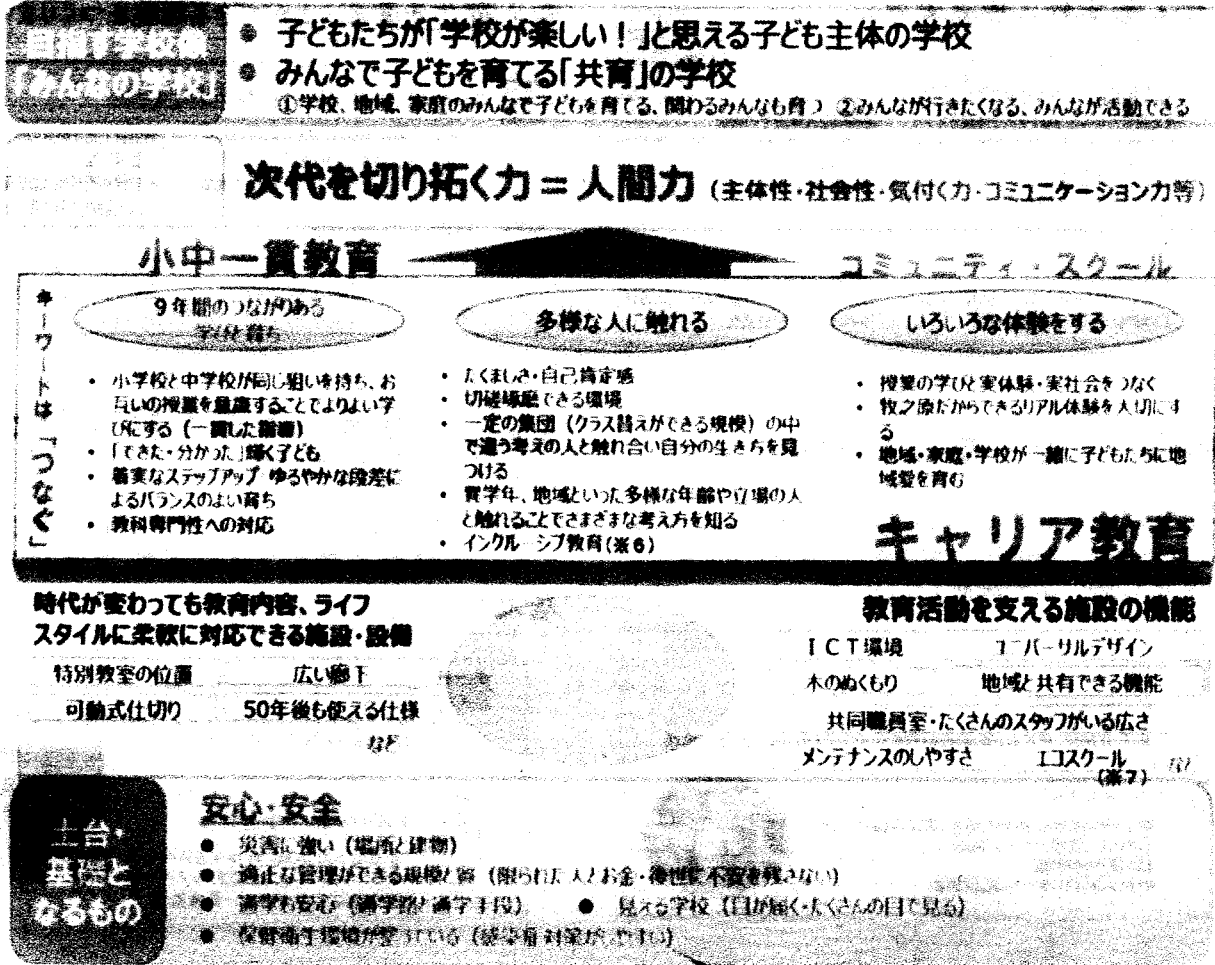
		分類	所属	役職等	氏名
1	共通	まちづくりの知識や経験が豊富な者	佐藤経済研究所	都市計画審議会 会長	佐藤 克昭
2		学識経験を有する者	静岡大学教育学部	准教授	島田 桂吾
3		学識経験を有する者	静岡県交通基盤部 建築工事課	課長代理	横田 恭子
4		学校関係者	相良中学校	市校長会会長	永田 初穂
5	榛原地域	自治会代表	静波区	区長	杉山 勉
6		自治会代表	細江区	区長	中山 道博
7		自治会代表	川崎区	区長	片瀬 徹
8		自治会代表	勝間田区	区長	村松 直巳
9		自治会代表	坂部区	区長	板倉 元
10		保護者代表	勝間田小学校	地区PTA連絡協議会 会副会長	本杉 康丞

R4.9.15 牧之原市教育委員会

学校用地に関連する学校再編計画等の記述

1 目指す学校像

【目指す学校像概念図】



※6 インクルーシブ教育 障害、経済上の理由、国籍などに限らず、「共に育つ」ことを基本理念として、物理的・心理的なバリアフリーを行う。障害のある者とない者が共に学ぶ仕組み。

※7 エコスクール 環境を配慮した学校施設

## 2 学校再編計画の基本方針

### 基本方針1 すべての子どもが主役の学校

すべての子どもにとって、学びやすく活動しやすい教育環境を、子ども主体で考えます。



9年間のつながりある特色ある学び・きめ細かな指導

校舎更新からできるリアルな体験とオンライン学習のハイブリッドな学びのプログラム  
障害、性別、国籍、経済上の理由にかかわらず「共に育つ」教育の充実  
9年間の切れ目ない支援

低学年2人体制での指導  
バイリンガル指導員・学校司書の複数配置  
開放体制の充実  
不登校児童生徒の居場所や学習環境の確保



子どもたちの居場所となる快適で温かみのある生活空間

明るく風通しがよい  
リフレッシュやクールダウンできる場所がある  
段差解消、エレベーター等の設置

図書室の配置と機能の拡充  
感染症に対応した設備とスペースの確保  
トイレの洋式化・乾式化

### 基本方針2 「次代を切り拓く力」を育む学校

一人一人の可能性を伸ばし、次代を切り拓くために必要な人間力を育むことができる環境をつくります。



力をつけるためのプログラムと専門的で個別最適な学び

次代を切り拓く力を育むためのプログラムで自分の将来を見通して自ら動く子どもに！  
プログラミング的思考、情報活用能力の育成

外国語で話す機会の創出（ICT活用、ALT複数着席等）  
一部教科担任制による専門的な指導  
少人数指導や個に応じた学び



学校施設全体が学びの場

1人1台端末に対応したゆとりある教室  
校内どこでもICT機器が活用できるネットワーク環境

発達段階に対応した空間、機能  
活動に応じて空間を遷る配置、機能等

### 基本方針3 安全・安心な学校

児童・生徒、教職員等が安心して学校生活を送れるよう、市民にとって最も不安な自然災害である津波の浸水想定区域外に、自然災害に強い学校施設をつくります。



危機管理意識の育成・通学方法

防災教育の充実  
登下校の見守りの充実  
通学方法は、子どもと保護者の負担を少なくすることを基本に協議



安全・安心の確保

構造的な安全性確保と防犯、防災機能の充実  
長期的に管理しやすい施設  
通学環境の整備  
親近な社会に向けた施設整備



### 基本方針4 地域の未来を担う子どもを育む学校

地域の人が関わり、地域の資源や行事を通じて、子どもたちが地域愛を育むことができ、学校がみんなの居場所となるようにします。



地域愛を育む・生涯学習充実

新しい学校のコミュニティ・スクールの設置と充実  
地域活動と交流の場づくり



地域や社会との共創空間

多様な人が執務・作業するスペース  
コミュニケーションが取れるスペース  
学校施設の高機能化・多機能化



### 働きやすく充実した指導ができる学校

教職員が働きやすく、充実した指導ができる組織体制と施設環境を整備します。



働きやすく、指導しやすい

チャレンジでき、やりがいを実感できる環境  
専門スタッフの配置とICT活用による業務の効率化  
研修や学校間の交流の充実  
9年間の組織づくりと教職員組織のあり方



効果的・創造的な執務環境

執務環境にふさわしい機能  
十分な執務スペースの確保  
ICT等が活用しやすい環境  
打ち合わせ等ができる共有スペース



◇建築面積とグラウンド

建築面積	学校教育法で定める延床校地面積：棟原地区12,655㎡、相良地区11,805㎡（生徒数からの学級数による）→3階建ての場合：X/3=4,200㎡(棟原)、3,900㎡(相良)	※参考、相中2800㎡、相小2500㎡
グラウンド	学校教育法に基づく小学校設置基準で定める運動場面積：【棟原】721人以上の場合、7,200㎡（児童数による） 学校教育法に基づく小学校設置基準で定める運動場面積：【相良】241人以上、720人以下の場合、2,400+10（児童数-240）=2,400+10（553-240）=5,530㎡（児童数による） 学校教育法に基づく中学校設置基準で定める運動場面積：241人以上、720人以下の場合【棟原】3600+10（生徒数-240）=3600+10（425-240）=5,450㎡（生徒数による） 【相良】3600+10（生徒数-240）=3600+10（320-240）=4,400㎡（生徒数による）	

◇屋内運動場（体育館等）面積

屋内運動場	義務教育諸学校の施設費の国庫負担等に関する法律施行令：小学校16学級以上の場合、1,215㎡ 中学校1～17学級の場合、1,138㎡
-------	-----------------------------------------------------------------------

校舎	建築面積
棟原地区	3階建ての場合：4,200
相良地区	3階建ての場合：3,900

グラウンド	中学校	小学校	合計
棟原地区	5,450	7,200	12,650
相良地区	4,400	5,530	9,930

屋内運動場	中学校	小学校	合計
棟原地区	1,138	1,215	2,353
相良地区	1,138	1,215	2,353

参考：棟中グラウンド23000㎡、相中グラウンド12000㎡

参考：棟中体育館1400㎡、川小体育館1200㎡

※格技場(700㎡)、仁田体(600㎡)は別

駐車場

棟原地区駐車ます	職員数	来客等	駐車ます数	スクールバス
中学校15学級	30			
小学校24学級	48			
特支6学級	6	105	195	15
事務員等	6			
小計	90			

相良地区駐車ます	職員数	来客等	駐車ます数	スクールバス
中学校12学級	24			
小学校18学級	36			
特支10学級	10	105	181	12
事務員等	6			
小計	76			

※校地選定の現段階では、スクールバスは校地内に駐車しておくことを前提としている。

職員90台、来客等35×3=105台、身障者2台、スクールバス15台  
 $30\text{m} \times (90+105)\text{台} + 45\text{m} \times 2\text{台} = 5940\text{m}^2$      $250\text{m} \times 15\text{台} = 3750\text{m}^2$   
 駐車場面積に一部車路が含まれるもの、敷地形状にもよるが、  
 ※構内道路は駐車場面積の半分程度と想定する。(バスロータリー含む)  
 構内道路  $5940 \div 2 = 2970\text{m}^2$      $3750 \div 2 = 1875\text{m}^2$     計4845㎡  
 $5940 + 3750 + 4845 = 14535\text{m}^2$

職員76台、来客用35×3=105台、身障者2台、スクールバス12台  
 $30\text{m} \times (76+105)\text{台} + 45\text{m} \times 2\text{台} = 5520\text{m}^2$      $250\text{m} \times 12\text{台} = 3000\text{m}^2$   
 構内道路  $5520 \div 2 = 2760\text{m}^2$      $3000 \div 2 = 1500\text{m}^2$     計4260㎡  
 $5520 + 3000 + 4260 = 12780\text{m}^2$

# 必要面積算出根拠

法令で定めのある必要面積=塗算し

資料2

相模地区義務教育学校、40学級	グラウンド	トラツクム	体育館	格技場	ゴール敷地		駐車場等		格技場	合計面積(※)
					大ゴール	小ゴール	大ゴール	小ゴール		
中学校：425人、15学級					1,200		14,535			34,462
小学校：757人、24学級						375	一般車:8,910 バス:5,625	700		
特支：6学級										
1200人規模校、39学級+特支6学級										

相模地区義務教育学校、40学級	グラウンド	トラツクム	体育館	格技場	ゴール敷地		駐車場等		格技場	合計面積(※)
					大ゴール	小ゴール	大ゴール	小ゴール		
中学校：320人、12学級					1,200		12,780			29,687
小学校：553人、18学級						375	一般車:8,280 バス:4,500	700		
特支：10学級										
900人規模校、30学級+特支10学級										

(※)合計面積について、施設間の隙間等、空き地として必要な面積は見込んでいない。

既設各敷地面積(参考として) ※GISシステムにて計測

敷地面積	グラウンド	トラツクム	体育館	格技場	ゴール敷地	大ゴール	小ゴール	駐車場	校舎(CAD計測)	学校敷地面積
操原中学校	23,000	300	1,400	700	2,000	850	-	2,500	2棟	3,300
川崎小学校	16,500	200	1,200	-	1,200	375	72	2,000	3棟	2,000
細江小学校	6,700	200	1,300	-	1,000	375	84	1,900	2棟	2,000

相模地区	グラウンド	トラツクム	体育館	格技場	ゴール敷地	大ゴール	小ゴール	駐車場	校舎(CAD計測)	学校敷地面積
相模中学校	12,000	300	1,700		2,000	800	-	1,300	3棟	2,800
相模小学校	8,800	200	1,200		1,500	375	150	1,000	3棟	2,500

平均値	グラウンド	トラツクム	体育館	格技場	ゴール敷地	大ゴール	小ゴール	駐車場	校舎(CAD計測)
中学校	17,500	300	1,550	700	2,000	825	-	1,900	3,050
小学校	10,667	200	1,233	-	1,233	375	102	1,633	2,167

※説明入り

取扱注意

第1回 学校用地候補地選定委員会

# 候補地の考え方について

令和4年8月31日 牧之原市教育委員会学校再編推進室

1

～未来の子どもたちのための新しい学校づくり計画～

## 新しい学校の考え方

- 2030年を目標に、施設一体型義務教育学校を開校する
- 学校区は2つ
  - ① 相良小学校、菅山小学校、萩間小学校、地頭方小学校、  
相良中学校
  - ② 川崎小学校、細江小学校、勝間田小学校、坂部小学校、  
榛原中学校

2

# 学校の場所(エリア)

## 1. 榛原地域については、榛原中学校から ぐりんぱる周辺

榛原中学校周辺は、現在、中学生が通っている場所と変更がなく、各小学校から見ても中心に近い  
ぐりんぱるは、広いグラウンドが整備されているため、この周辺エリアを選定

## 2. 相良地域については、相良総合センター 「い〜ら」から相良総合グラウンド周辺

市街地に近い相良総合センター「い〜ら」から相良総合グラウンド周辺エリアを選定(市街地の背後地)



～未来の子どもたちのための新しい学校づくり計画～

## エリア選定の理由

1. 津波浸水想定区域外で、災害に強い施設が建てられること
  2. 児童・生徒の安全面を考慮するとともに、できるだけ多くの児童・生徒が、徒歩または自転車で通うことができる場所とすること。
  3. 学校周辺の道路やインフラ等の状況を踏まえ、関係部署と連携を図り、都市計画等の他計画との融合を図って校地を選定すること。
- この条件に合い、総事業費が抑えられる場所を選定

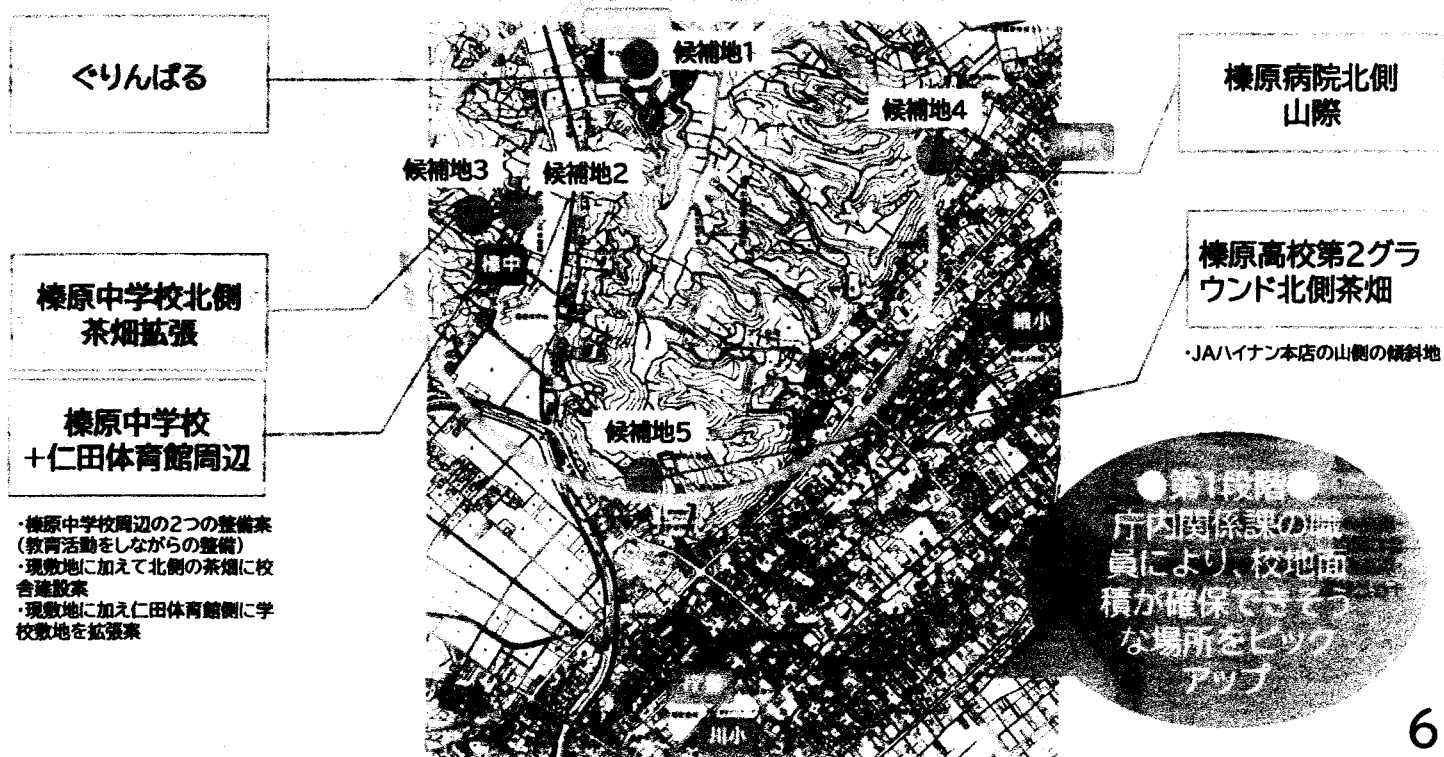


# 市の候補地選定の条件

- ① 津波浸水想定区域外
- ② 必要最低限の敷地面積(榛原地域3.5ha、相良地域3ha)が確保できる
- ③ 公用地の活用・施工方法・道路等の状況等踏まえて費用が抑えられる
- ④ 保護者や地域の人からある程度の合意がされやすい
- ⑤ 市の他の計画との整合が取れる

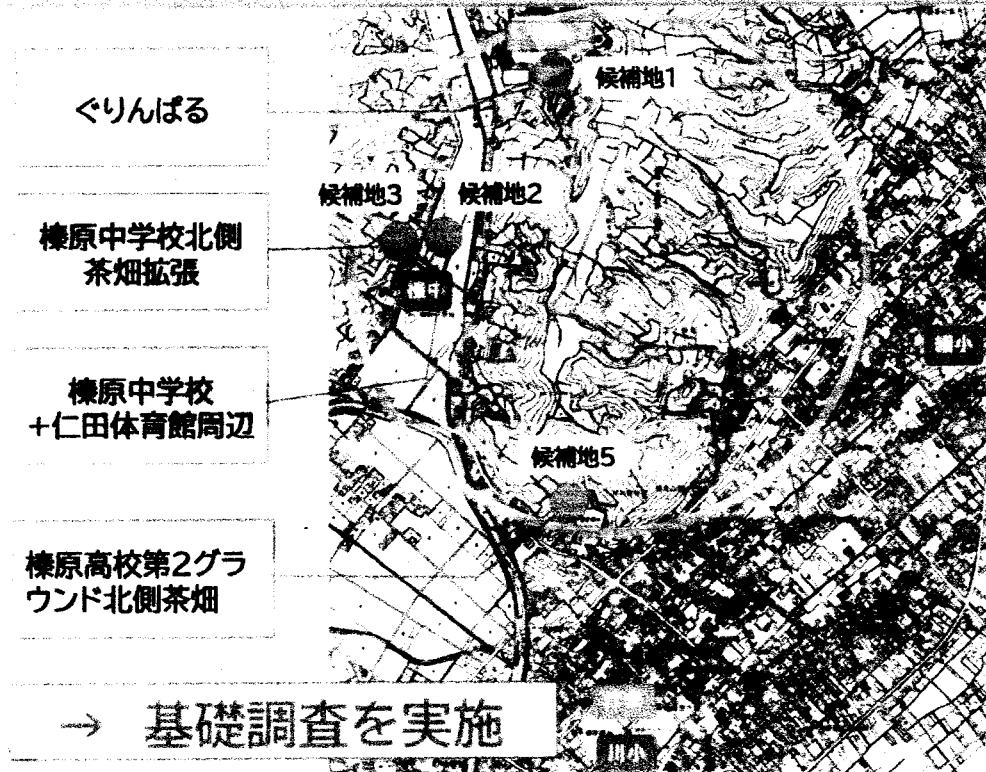
5

## 山形県立相良高等学校の候補地



6

## 榛原地域候補地(第2段階)



●第2段階●  
 図面上、必要面積3.5ha以上確保できずなど、条件的に実現できそうなどるを絞りこみ

- 候補地から外した理由
- 候補地4 榛原病院北側山際
- ・3.5haより広く敷地をとることが難しい
  - ・接道要件が厳しい(宅地が連担しているところに接道の整備が必要)
  - ・開発要件が厳しい(埋蔵文化財の包蔵地であることなど、多大な事業費と時間を要する)

→ 基礎調査を実施

## 榛原地域の最終段階の候補地



- 候補地から外した理由(基礎調査の結果)
- 候補地3 榛原中学校北側の茶畑
- ・傾斜が厳しく平場が確保が難しい
  - ・現学校敷地とのアプローチのための立体横断施設の設置や、スクールバスのロータリーと校舎等との連携が難しい
- 候補地5 榛原高校第2グラウンド北側茶畑
- ・平場が2.7haしか確保できない
  - ・県道からの進入路が急こう配、かつ、スクールバスのロータリーの設置ができない

ぐりんぱる

- ・都市計画決定された運動公園
- ・13haの敷地中平均面積は5.3ha

榛原中学校及び周辺

- ・現在の中学校と仁田体育館を含む周辺
- ・現在の中学校の敷地面積4.5ha + αとなる

●第1段階●  
庁内関係課の職員により、校地面積が確保できそうな場所をピックアップ

菅山小学校周辺

・菅山小学校とその周辺

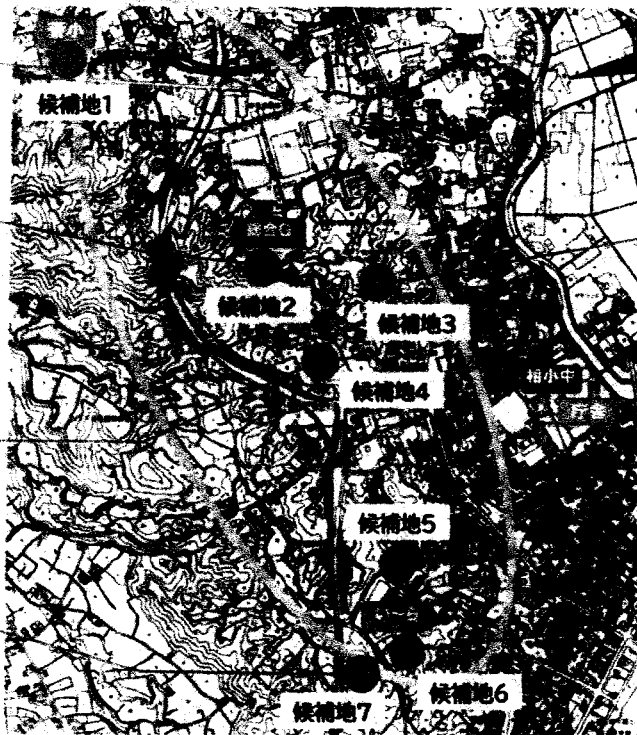
相良総合グラウンド

大沢IC周辺

・大沢IC交差点付近

い～ら西側

・多目的体育館の向かい側  
・河川あり



大沢公民館  
西側の山

・現在は山と谷になっている場所  
・ため池あり

い～ら北側

・本通りの西側の突き当りの傾斜地で  
い～ら横の道路を挟んだ北側に位置

い～ら南側

・多目的体育館の整備地東側

(エリア外)  
現相良小中学校の敷地

9

## 相良地域候補地(第2段階)

●第2段階●  
図面上、必要面積3.0ha以上確保できそうなところ、要件的に実現できそうなところを絞りこみ

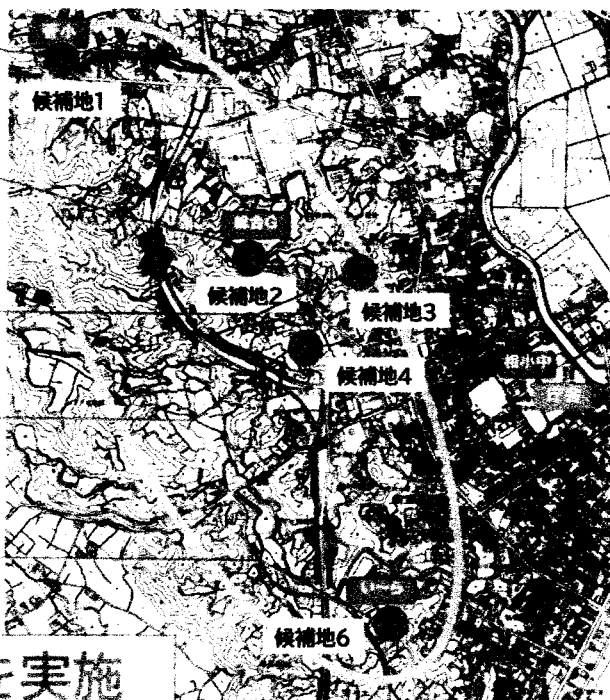
菅山小学校周辺

相良総合グラウンド

大沢公民館  
西側の山

大沢IC周辺

い～ら南側



候補地から外した理由

候補地5 い～ら北側

・平場面積が2.3haしか確保できない  
・急こう配な位置となる

候補地7 い～ら西側

・平場面積が2.5haしか確保できない  
・敷地中央に河川があり、大規模な河川改修などが必要となる

現相良小学校・相良中学校

・河川及び津波浸水想定区域内で最大5メートルの浸水深予想のため、安全安心を担保するには5メートル以上の土盛りが必要  
・津波浸水想定区域の設置は、他地域からの理解を得ることができない  
・相良城の文化財包蔵地で大規模な形状変更には全域の文化財調査が必要。教育活動しながら全体の文化財調査を実施することは不可能

→ 基礎調査を実施

10

# 相良地区の候補地

相良総合グラウンド

大沢公民館  
西側の山

大沢IC周辺



## 候補地から外した理由(基礎調査の結果)

### 候補地1 菅山小学校周辺

- ・現学校敷地が狭いので、周辺用地を購入しても、教育活動をしながら新たな校舎建設する面積が確保できない

### 候補地6 い～ら南側

- ・平場が2.8haしか確保できない(い～ら駐車場の高さまで下げても)
- ・スクールバスの進入路や駐車場の確保などが困難
- ・大規模造成により約70万㎡という大量の残土が発生し、残土処分費が高額となる

各候補地についての意見まとめ(候補地状況確認シートのまとめ)

資料4

■ 榛原地域候補地1ぐりんばる

○思ったこと・気づいたこと

評価項目	小項目	意見
1 防災	安全	高台で災害(津波)にも対応できる。
		安全面は最優先事項であり、高台の上にあつて津波や風水害の影響を受ける心配がないことが最大のメリット。保護者にとっても子どもの安全は最優先の問題である。
		避難地として考えると安全、安心である。
		高台にあるので津波の心配は無くなり安全面では問題ないと思います。
		高台で自然災害の心配は少ない。
		高台であることの安心感がある
	代替地のリスク	代替地(田)は榛原中建設時同様のリスクが生じる。田が遊水地の機能を果たしているなら、建設地の建設による被害発生想定を行う。
2 土地利用	整備面積	とてもグラウンドが広くて十分な土地が確保できると思う。
		かなり広い平らな敷地であり、校舎敷地内に入ってからの移動には高低差がなくて楽である。
		平地(グラウンド)は広く整備されて形状もよく、施設が配置しやすそう。
3 教育環境	教育委活動のしやすさ	建設前からグラウンドが確保できている点は良いと感じています。
	周辺環境	市街地と離れている(学校が市街地から孤立してしまう)等の不安あり。
		周辺の環境も良くて勉強するには適していると考えます。
		教育の環境的には、交通などの騒音もなく問題はないと思います
		周辺が森林の高台にあり、静かで景観もよい
4 アクセス	勾配の利用方法	急勾配の通学路をマイナスと捉えるかプラスと捉えるかで大きく変わる。坂があるということは高台にあり、安全面ではプラス。学校敷地内で児童生徒のトレーニングなどに役立つという考えもある。
		急勾配の通学路について、駐輪場等は低地に整備し、校舎等へはエスカレータの設置で負担は軽減できる。
	通学路	主要幹線道路から離れているので、登下校時に学校周辺で交通渋滞を起こすなどの心配は少ないと思われる。
		駐車場については大型のスクールバスを運行する際には少し狭く感じました。
		高台で安全面で良いが、通学路が急こう配で徒歩、自転車通学者が大変である
		進入路が長く、急こう配であり、徒歩・自転車通学者には負担が大きい
道路幅員	大型バスの運行には道幅が狭く、拡幅も必要。	
5 用地・建設	工事費	建設費用、約2倍は最重要である。榛原中への建設費用の差額約55億は有効活用したい。榛原中で十分対応できる。「その約55億」を榛原中の充実及び市内の施設等に有効活用すべきと考える。
	代替地整備	代替地として、現中学校敷地(使える施設を残して)は考えられないか。 同等の運動公園を他に建設するのは無理がある。
6 地域性	合意形成	グラウンド及びテニスコートの利用率が高い。特にグラウンドは土の状態・排水が良く、降雨後、数時間で使用可能である。
	地域との関わり	地域との交流には不便な立地と思われる。 高齢者が気楽に立ち寄れない

■ 榛原地域候補地1ぐりんばる

○課題だと思うこと・確認したいこと

評価項目	小項目	意見
30	1防災	災害時の活用 ぐりんばるの活用方法を考えた時、津波・洪水共に浸水域ではないため、 ①車での避難地として活用できる。 ②自衛隊等の後方支援者の居住区域となる。 ③仮設住宅の建設地として活用できる。 等、災害への懸念は榛原中でも十分対応できるため活用に重点化したい。
31	4アクセス	スクールバス スクールバスを利用だと、運行面でどうか気になるところはあります。
32		通学路 細江、坂部地区よりの山越え通学路整備が必要で、周辺のインフラ開発も合わせて検討願う。
33		通学路 徒歩・自転車通学するには、坂道が長く、この道でスクールバスとすれ違う時に危険が多いのではないか。また、この坂道を通学する場合、体力を必要とするし、時間がかかり過ぎるのではないか。
34	5用地・建設	工事費 教育のためのとはいえ、コストが問題。財源はどうするのか。将来の通しも大事ですが、将来の負担も心配です。
35		工事費 代替グラウンドの整備費、取得費を考えると第3の候補を検討し、あまり高地にならない地域で生徒が通学に便利な所へ造成費等として投資した方が有益である。
36		工事費 ぐりんばるの代わりにグラウンドを確保するという点で費用が増えてしまうこと。
37		工事費 代替地確保が必須条件とすると、代替地の買収・施設整備に関する費用を含め、全体コストが莫大となる。市の財政負担が可能であろうか、経済的に実現性に疑問を感じる。
38		工事費 1番の課題は、費用。
39		代替地 代替の土地を事前に確保することは困難であるが、アテはあるのか。
40		代替地 事前に代替地の整備が必要ということだが、市内榛原地区に代替地になる用地があるかどうか問題である。
41	代替地 代替地整備は校舎建設前に行わなければならないのか。同時進行では無理なのか。	
42	代替地 代替地を探すとしても、候補用地の当てがあるのかどうか。	
43	代替地 都市計画公園の認定解除の為に代替地等の経費負担は市の負担となるのか。(都市計画公園の認定そのものが理解していないため)	
44	代替地 代替施設を考えるなら、費用面のみで見ても比較候補地としては無理があるのではないかと。	
45	代替地 代替グラウンドが本当に必要か？(市全体のグラウンドの利用率等要確認) 都市計画決定の取り消しや学校のグラウンドを開放することで解消できる部分はないか、など、要精査。仮に代替グラウンドが必要とした場合、候補地はあるか？スケジュールは間に合うか？等、実現可能性に疑問。	
46	6地域性	合意形成 ぐりんばるは市民にとって大切なスポーツ憩いの施設で、愛されているところなので代替地を準備するにしてもなくなるのはもったいない。
47		合意形成 グラウンドが使用できなくなることについて市民の理解は得られるのか。
48		地域との関わり 学校が地域から独立する形になるが「みんなの学校」というコンセプトと合致するか。

■ 榛原地域候補地2 榛原中学校

○課題だと思うこと・確認したいこと

評価項目	小項目	意見	
25	災害時の活用	災害発生時の基幹施設となる可能性が高い(静波・川崎地区の避難所にはなる)ことを想定して設備を整えたい。	
26	1防災 水害対策地盤	用地買収の見通しと今あるグラウンドが調整池の役割をしているということですが、将来的にはどういう形で残しますか。	
27		防災の面で感じたことは、グラウンドが調整池となっている。少しの雨でもグラウンドが水浸しになること、小学生を預かる場所として心配である。	
28		自然災害に弱い場所に思える。	
29		ハザードマップ上の津波浸水区域ではないが、津波の勝間田川遡上による浸水害など想定外の災害が起きた場合や、大雨による洪水の危険性なども考える必要がある。	
30		校舎部分をかさ上げしてもグラウンドは貯水のためにそのまましないと、学校周辺住居への浸水が起きてしまわないか。	
31		立地環境から河川洪水や軟弱地盤によるリスクが想定される。	
32		地盤の悪さや河川災害への不安等、市民が持っている負のイメージを払拭できるか。(技術的には可能であると考えが)	
33		委員会の時にも発言させていただきましたが、当該地域は地盤が悪いと聞いています。今後60年以上使用する校舎として大丈夫なのか。また大地震の際、液状化現象についても調査されているのか。	
34		軟弱な地盤と盛土に対する地盤対策が必要ではないか。	
35	3教育環境 教育活動	現在地の中学校に問題点がないか、確認する必要あり。	
36		現状のグラウンド、テニスコートの状態を見ると、通常の学校生活に問題が生じているのではないか。	
37	4アクセス 通学路	周辺に幹線道路があることにより、通学バスや登下校の送迎による渋滞時に影響が大きくなる。	
38		徒歩通学の児童に対する安全面(歩道の整備等)は問題ないでしょうか。現在でも歩道がない所を歩く児童が多いため、朝の交通量を考えるとぐりんばるに建設することになったとしても少し気になります。	
39		通学路の整備 ①中学生は現行としても、小学生をバス通学とどう仕分けるか。 ②徒歩の導線:中学生なら良かったが、小学校低学年が数人で下校するとなると歩道は必須。 ③川崎区内では竹橋及び現川崎コミュニティーから竹橋間の歩道整備。	
40	5用地・建設	施工方法 地盤強化、施工の工夫など、どのような防災対策を講じれば安全性が十分担保されるか。土木・建設部門や専門家の見解を伺いたいと思う。	
41		周辺への影響	建設中の騒音、規制が多くなり、日常の学校生活に支障あり。適地とは言えない。
42			建設期間中の騒音や規制による学習等への支障、不便さなどへの対応は大丈夫か。
43	用地取得	新規の土地買収(田)は円滑に交渉が進みそうかどうか。	
44	6地域性 合意形成	地盤の悪さへの対応について、市民の理解は得られるのか。	
45	7その他 重点化	災害に重きを置いて高台を選ぶか、平常時の教育活動や市民との交流を考えて平場を選ぶか、今後の学校像を見据えながら、土地を選定する必要がある。	

## ■全体に関わる意見

○思ったこと・気づいたこと

評価項目	小項目	意見
2土地利用	配置計画	ロータリーよりも、昇降場所を決めての一方通行の方がよいと思われる。ロータリーにすると、どうしても入る車と出る車で渋滞が起きる可能性がある。
		校舎の形が変わることは仕方ないとは思いますが、校舎に必要なものが何なのか、どれは必ず入っているかは大切だと思います
4アクセス	通学方法	すべて、徒歩・自転車・スクールバス・保護者による送迎のいずれかで登下校することとし、いわゆる小学校の学年(1~6年)等の、集団登校・集団下校は行わないという考え方で良いか。
	通学路	相良は3地点とも交通ルートが悪いと思いました
6地域性	合意形成	この用地選定はかなり大きな問題であるので、保護者の意見を聴取することはできないか。



## 各候補地の疑問・課題に対する回答

### 1 榛原地域

#### ■ 候補地1 総合運動公園ぐりんぱる

Q 災害時の拠点となる施設のため、ぐりんぱるは災害対応に重点化できないか。

- ・ ぐりんぱるは、現在、大規模災害時の一次救護所、消防活動の拠点、自衛隊宿营地、ヘリポートに指定されている。ぐりんぱるを学校敷地とする場合は、これらの災害時の機能をどこに移転するか検討する必要がある。

Q 通学路の整備も併せて行うか。

- ・ 通学路の整備については、スクールバスとの運用と併せて費用対効果を考え、検討・整備する必要がある。

Q 代替地は必ず整備しなければならないか。必要か？間に合うか？

- ・ 都市計画決定されている運動公園のため必ず整備しなければならない。都市公園法施行令第1条により、人口に対しての整備面積が決まっている。ぐりんぱるの建設当時から人口が減っているため、現在は8.7haを整備する必要がある。

Q 代替できる場所はあるか。代替地には現在の中学校を活用できないか。

- ・ 現在、代替地の候補はない。ただし、8.7haの整備面積を分割して整備することは可能。
- ・ 都市計画決定された運動公園のため、まず、8.7haの新たな運動公園を整備し、運動公園として計画決定されたのち、ぐりんぱるを学校として整備することが可能となる。  
したがって、現在の中学校を代替地としては活用することができない。

Q ぐりんぱるの利用率はどれくらいか。

- ・ 令和3年度の年間利用実績によると、年間311日の解放日数に対して、グラウンドは延べ1,122回の利用で稼働率360.8%（利用人数：33,086人、36団体）、テニスコートは1,499回の利用で稼働率482%（利用人数：12,743人、66団体・個人）となっている。

Q 利用者の理解を得ることができるか。

- ・ 先に整備するため、使用できない期間はない。ただし、面積を分割して整備することになると、現在行われている全国規模の大会などができなくなる可能性があるため、理解を得ることが難しいことも想定される。また、水はけがよいグラウンドのため、実用的で利用頻度が高い場所でもある。

Q 地域から独立する立地になるため、「みんなの学校」というコンセプトと合致するものとなるか。

- ・ 地域から独立する形にはなるため、気軽に立ち寄る形は難しいかもしれない。榛原中学校も同様だが、榛原地域の各地区からのアクセスはしやすいところなので、開校後に気軽に立ち寄るための仕掛けは必要となる。

## ■ 候補地2 榛原中学校及び周辺

Q 地盤が悪く、河川の洪水浸水もあるが、安全性は大丈夫か。液状化について調査しているか。地盤強化や施工方法について専門家の意見を聞いた。

- ・ 榛原中学校の地盤については、過去の地盤調査の結果からは、地下20m前後に特別に硬い岩盤層があることが判明しており、杭基礎工事を行うことで建物を支えることができると考えている。ただし、ボーリング調査などの事前の地盤調査を丁寧に実施する必要がある。
- ・ 現在の中学校も約340本の杭は打ってあるため躯体は支えられている。50年前の技術のため一部傾きがあるが、今はもっと精度が高くなっているので対応できるものと考えている。

- ・ 駐車場等に関しては地盤改良が必要である。
- ・ 液状化については、静岡県第4次地震被害想定において、液状化の予測はされていない場所となっている。

Q この土地を活用している現状の中学校は、学校活動に支障はないか。

- ・ 現状、通常どおりの学校運営がされている。また、遊水地としての機能を有するグラウンドについては、土が流されてしまうことがあるので、定期的にグラウンドの土を入れている。

Q 小学生と中学生、徒歩と自転車が通学することを考えると今の通学路は整備しないと危険ではないか。

- ・ 子どもたちの安全のため、通学路とスクールバスの両面から整備する必要があると考えているが、その安全性と費用のバランスを見て、まちづくりの観点からも検討していく必要がある。

Q 工事中は教育活動の妨げにならないか。

- ・ 教育活動に影響が出ないような施工計画とする。具体的には、騒音防止シート等や建設資材置き場の確保、重機の出入りに対する安全性の確保等などが考えられる。敷地面積が広いので、影響が少ない施工が可能だと考える。

Q 用地買収は円滑に進みそうか。

- ・ 現時点では、地権者に説明し理解を求めるということになる。どの程度の土地を新たに求めるかは今後の検討となる。

Q 地盤の悪さなどに対する市民の理解を得られるか。

- ・ 施工方法を始めとする施工面の説明や災害時の考え方について説明し、理解を求める。

榛原地域学校用地候補地 状況整理シート  
■榛原地域候補地1 ぐりんぱる

資料6

項目	評価視点	メリット	デメリット	課題と考えること	解決策
1 防災 (安全性)	津波 水害	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高台のため津波や風水害の被害の心配がない</li> </ul>			
	土砂災害				
	整備面積		<ul style="list-style-type: none"> <li>・十分な平地が確保できる</li> </ul>		
2 土地利用	地形・ 整地形状				
	周辺状況・ 教育活動のしやすさ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・交通量が多くなく静かであり</li> <li>・建設前からグラウンドの確保ができています</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市街地と離れている(学校が孤立している)</li> </ul>		
3 教育環境	道路幅員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・勾配を子どもたちのトレーニングに利用できる</li> <li>・主要基幹道路から離れているので交通渋滞の心配はない</li> </ul>			
	通学路		<ul style="list-style-type: none"> <li>・駐車場や進入路が狭い</li> <li>・通学路が急勾配で通学に体力的、時間的負担がある</li> </ul>		
	駐車場		<ul style="list-style-type: none"> <li>・敷地内の坂道が長く、バス、自動車と、自転車や徒歩通学の子どもがすれ違うことなどが危険</li> </ul>		
	スクールバス				
4 アクセス (利便性、通 学安全性)	工事費	<ul style="list-style-type: none"> <li>・代替地を含めた建設費用が高額</li> <li>・同等の代替地の用意は難しい</li> </ul>			
	工事中周辺 への影響				
	用地取得				
	代替地整備				
5 用地・ 建設 (経済性、実 現可能性)	地域との関わり		<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域交流には不便</li> <li>・利用率が高い施設</li> </ul>		
	合意形成のしやすさ			<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者の理解を得ることができ るか</li> <li>・「みんなの学校」が実現できる か</li> </ul>	
6 地域性					
7 その他					

榛原地域学校用地候補地 状況整理シート  
■榛原地域候補地2 榛原中学校

項目	評価観点	メリット	デメリット	課題と考えること	解決策					
1 防災 (安全性)	津波	<ul style="list-style-type: none"> <li>・渠道に近い</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地盤が軟弱</li> <li>・河川の浸水想定区域</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・河川洪水の浸水区域だが現在まで校舎の浸水はないこと、施工の工夫で対応により災害対応は可能ではないか</li> <li>・盛土をした場合は近隣に影響が出ないか</li> </ul>						
	水害									
	土砂災害									
2 土地利用	整備面積	<ul style="list-style-type: none"> <li>・十分な平地面積が確保できる</li> <li>・各地区からのほぼ真ん中</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現在中学校があるため施設配置に制約がある</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・既存施設がある中で適切な配置ができるか</li> </ul>						
	地形・整地形状									
3 教育環境	周辺状況・教育活動のしやすさ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市街地に比較的近い</li> <li>・交通量が多くなく、静かであり</li> <li>・現在の中学校のため、子どもの環境変化が小さい。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・現在の学校がこの場所で困っていることがないか確認が必要</li> </ul>						
						道路幅員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平坦なため通学の負担が少ない</li> <li>・道路幅員が確保できている</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・橋梁を含めた通学路の整備が必要</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・通学の安全には、スクールバス利用基準と歩道整備を建設と並行して進める必要がある</li> </ul>	
						通学路				
4 アクセス (利便性、通学安全性)	駐車場	スクールバス								
	スクールバス									
	工事費					<ul style="list-style-type: none"> <li>・多くは既存の土地となり、コストパフォーマンスが高い</li> <li>・教育活動を継続しつつ建設ができる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・工事の騒音や敷地内の規制がある</li> <li>・地盤や浸水対策として施工方法に工夫が必要</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現在の中学校の活動への工事の影響</li> <li>・施工方法を工夫すれば安全な学校となるのか</li> </ul>		
工事中周辺への影響										
用地取得										
5 用地・建設 (経済性、実現可能性)	代替地整備									
	地域との関わり					<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の人が立ち寄りやすい</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市民に地盤の悪い等の災害に弱いイメージがある</li> </ul>			
6 地域性	合意形成のしやすさ									
7 その他										

■榛原地域候補地評価シート

委員名( )

資料7

項目	評価視点	内容	配点	候補地1 ぐりんぱる	候補地2 榛原中学校及び周辺
1 防災 (安全性) 5点	津波	・自然災害に対して安全か。	-	-	-
	水害		5	5・4・3・2・1	5・4・3・2・1
	土砂災害		-	-	-
2 土地利用  15点	整備面積	・必要最低平場面積(榛原地区3.5万㎡)を取ることができるか。 ・他の機能(駐車場・ロータリー・その他の機能)等を追加することができる余裕を持った面積が確保できるか。	5	5・4・3・2・1	5・4・3・2・1
	地形・ 整地形状	・健康で文化的な環境を得ることができるか。 ・施設の配置がしやすい形状か。 ・死角等が生じない、見通しの良い地形であるか。	10	10・8・6・4・2	10・8・6・4・2
3 教育環境  10点	周辺状況・ 教育活動のしやすさ	・周辺に公共施設、商店、里山などがあり、教育活動がしやすいか。 ・周辺に騒音、臭気等はなく適切な教育環境であるか。	10	10・8・6・4・2	10・8・6・4・2
4 アクセス (利便性、 通学安全性)  25点	道路幅員	・道路幅員があり、緊急車両の進入等に支障はないか。 ・スクールバスのすれ違いや朝夕の交通状態の恐れがないか。	5	5・4・3・2・1	5・4・3・2・1
	通学路	・徒歩、自転車通学者が安全に通うことができるのか。	10	10・8・6・4・2	10・8・6・4・2
	スクールバス	・スクールバスの駐車場やロータリーが確保できるか。 ・スクールバスが適切に運用できるか。	10	10・8・6・4・2	10・8・6・4・2
5 用地・ 建設 (経済性、 実現可能性)  30点	工事費	・用地取得費、造成費、建設費、進入路整備費、代替地等のトータルコストが抑えられるか。	15	15・12・9・6・3	15・12・9・6・3
	工事中周辺 への影響	・工事による周辺への影響があるか。	5	5・4・3・2・1	5・4・3・2・1
	工期の確保	・造成、代替地整備、用地確保などを含めた工期の確保が可能か。	10	10・8・6・4・2	10・8・6・4・2
6 地域性  15点	地域との関わり	・地域の人が来やすい場所であるか。	5	5・4・3・2・1	5・4・3・2・1
	合意形成のしやすさ	・市民の合意を得やすい場所であるか。	10	10・8・6・4・2	10・8・6・4・2
7 その他  15点	みんなの学校	目指す学校像の「みんなの学校」として適切な場所か。	10	10・8・6・4・2	10・8・6・4・2
	まちづくりの視点	・周辺に発展の可能性はあるか。	5	5・4・3・2・1	5・4・3・2・1
合計点(115点)				0	0